自由集会

■ 5月22日（木） ―― 第1会場（岡山コンベンションセンター 3F　コンベンションホール）

職業性ストレス調査票ユーザーズクラブ…… 18:20 ~ 19:50

第14回職業性ストレス調査票ユーザーズクラブ

職場で活用できるストレス調査票についての最新動向の紹介と調査票についての解説を行います。

情報提供者：

話題1.　新職業性ストレス簡易調査票について

話題提供者 . 小田切優子（東京医科大学）・川上憲人（東京大学大学院）

原谷隆史（（独）労働安全衛生総合研究所）・堤明純（北里大学）

話題2.　ワーク・エンゲイジメント、リカバリー経験について

話題提供者 . 島津明人（東京大学大学院）

話題3.　組織的公正調査票について

話題提供者 . 井上彰臣（産業医科大学）

話題4.　職場のいじめ・ハラスメント調査票について

話題提供者 . 津野香奈美（和歌山県立医科大学）

話題5.　いまさら聞けない職業性ストレス調査票についてのあれこれ

各調査票に関する質問・解説を含む

世話人：堤　　明純（北里大学）

小田切優子（東京医科大学）

小林　章雄（愛知医科大学）

原谷　隆史（（独）労働安全衛生総合研究所）

川上　憲人（東京大学大学院）

■ 第２会場（岡山コンベンションセンター 1F　イベントホール 1/2 東）

インジウム研究グループ…… 18:20 ～ 19:50

テーマ：第７回インジウムの健康影響に関する情報交換会
発表者：
【概要】
平成 25 年 10 月、「労働安全衛生規則等の一部を改正する省令」が公布され、インジウム化合物は特定化学物質の管理第２類物質・特別管理物質になりました。平成 25 年１月１日からインジウム作業者の健康診断が義務化され、さらに、平成 26 年１月１日から作業環境測定および呼吸用保護具の着用が義務化されました。一方、金属インジウムに関しては有害性情報が十分でなかったために、対象物質外になっています。今回、金属インジウム取扱い職場の健康影響調査、血清インジウム分析の精度管理、インジウム含有太陽電池の生体影響、行政の動きについて報告し、意見交換を行います。
【講演】

(1) インジウムの健康影響研究の概要	大前　和幸	（慶應義塾大学医学部）
(2) CIGS の肺障害　- 動物実験より -	田中　昭代	（九州大学医学研究院）
(3) 血清インジウム分析：精度管理と経験	福井　良成	（一般財団法人　京都工場保健会）
(4) 金属インジウム作業者の健康影響調査	中野真規子	（慶應義塾大学医学部）
(5) インジウム及びその化合物の規制について	角田　伸二	（厚生労働省労働基準局）
(6) 総合討論		

世話人：田中　昭代（九州大学医学研究院環境医学分野）
　　平田美由紀（九州大学医学研究院環境医学分野）

■―――― 第３会場（岡山コンベンションセンター 1F　イベントホール 1/2 西）

健康教育・ヘルスプロモーション研究会…… 18:20 ～ 19:50

テーマ：働き盛り世代におけるヘルスリテラシー IV ～職域の健康教育とヘルスリテラシー

当研究会では、職域における健康教育・ヘルスプロモーションの実践と評価について扱っています。ここ数年はヘルスリテラシーの職域での活用可能性について議論を行ってきました。健康格差が進行する中、自らの健康に関する情報を収集、選択、理解、活用する力であるヘルスリテラシーが注目されています。新入社員から生涯を通じてヘルスリテラシーを高めていくことが期待されますが、職域での実証研究は不足しています。昨年は、職域における活用ケースを話題提供から、活用する際の枠組み、尺度、活用方法について議論しました。その中で、従来から取り組まれて来た健康教育とヘルスリテラシーの違いが話題になりました。IUHPE（健康教育ヘルスプロモーション世界会議）でもヘルスリテラシーと既存の枠組みとの差が議論（Health literacy: new wine in old bottles?, Health Educ. Res.（2002）17（3）:287-290）されています。今年は、昨年に続き健康教育の専門家である江口先生をファシリテーターに迎え、職域で取り組まれて来た健康教育と、注目されているヘルスリテラシーの違いを議論することで、職場で求められる健康情報の提供方法や従業員の自己健康管理への支援の方法について議論したいと思います。

■　テーマ「働き盛り世代におけるヘルスリテラシー IV　～職域の健康教育とヘルスリテラシー」

■　世話人・ファシリテーター：

福田　洋（順天堂大学医学部総合診療科）

江口　泰正（産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学研究室）

■　プログラム（予定）：

1）　本日のテーマについて：福田　洋（順天堂大学医学部総合診療科）

2）　話題提供「職域の健康教育とヘルスリテラシー」

3）　ディスカッション

■―――― 第４会場（岡山コンベンションセンター 2F　レセプションホール）

産業中毒・生物学的モニタリング研究会…… 18:20 ～ 19:50

テーマ　：オフセット印刷工程で発生した胆管がんとその後の状況について

座長　　：野見山　哲生（産業中毒・生物学的モニタリング研究会　代表世話人）

話題提供：

話題１　オフセット印刷労働者の胆管がんに関するその後の研究から

熊谷　信二（産業医科大学）

話題２　印刷労働者にみられる胆管がん発症のその後の研究から

圓藤　吟史（大阪市立大学）

話題３　オフセット印刷業で使用する化学物質

塚原　照臣（信州大学）

代表世話人：市場　正良（佐賀大学）、野見山　哲生（信州大学）

■ 第５会場（岡山コンベンションセンター 2F　展示ホール）

職業性呼吸器疾患研究会 …… 16:40 ～ 18:10

テーマ：職業性呼吸器疾患の臨床的特徴
座　長：岸本　卓巳（岡山労災病院・副病院長）
１）石綿曝露による悪性中皮腫
藤本　伸一（岡山労災病院　呼吸器内科・腫瘍内科）
２）インジウム肺
中野真規子（慶應義塾大学 医学部 衛生学公衆衛生学教室）
講演の内容は、“石綿曝露による悪性中皮腫”では、悪性中皮腫の臨床的特徴と石綿曝露との関係、“インジウム肺”ではインジウム肺の臨床的特徴と法規制です。

一般社団法人　産業理学療法研究会 …… 18:20 ～ 19:50

テーマ：職場における運動指導の進め方
“運動指導”に関心のある方は是非ご参加ください。
内　容：男女とも働き盛りの方ほど運動していません。
「時間がないから」「きついから」と上手に言い訳をする彼らへあなたはどんな運動指導をしていますか？
今回は、あなたが保健指導における運動指導が効率的にできるようになることを大きな目的としています。そのために運動の効果、身体活動量の評価方法、対象者にふさわしい目標設定の方法、運動の方法について産業保健分野の理学療法士がわかりやすく説明します。　これを通じてあなたの保健指導がより現実的なものになることを期待します。そして保健指導の対象者が健康を手に入れ、あなたの満足感が得られれば幸いです。
司　会：野村　卓生（関西福祉科学大学 保健医療学部）
演　者：浅田　史成（大阪労災病院 勤労者予防医療センター）

世話人：高野賢一郎（関西労災病院 勤労者予防医療センター）
理学療法士は、産業医や保健師などの専門職の方々と連携して理学療法の専門性を活かした業務を進めています。

■ 第６会場（岡山コンベンションセンター 3F　301会議室）

産業精神衛生研究会…… 14:00 ~ 15:30

テーマ：職場復帰支援のコツを再整理する

メンタルヘルス不調者の職場復帰支援について、職場で活用できる情報としては、2009 年に改訂された「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援」（厚生労働省）の他、過去に数多くの研究報告がある。臨床領域の大きな動きとしては、リワークプログラムの発展が顕著である。今回は、それらの知見、成果を集約した上で、今後の当該活動に求められる基本的事項、盛り込まれるべき要素、留意点などを議論したい。

話題提供者：

難波　克行（中外製薬㈱）

昇淳　一郎（パナソニックヘルスケア㈱）、他

また、アルコール健康障害対策基本法についても、関連情報を提供する予定である。

代表世話人：

廣　　尚典（産業医科大学）

産業心理技術研究会…… 16:10 ~ 17:40

産業心理技術研究会第７回の会合として、第87回日本産業衛生学会総会時に研修会を開催することになりました。産業領域における心理臨床活動には労働者を取り巻く社会構造や労働態様、企業組織の特殊性等、さまざまな問題がかかわっています。過重労働、ストレス、メンタルヘルス問題の増加する中、依然として労働者の自殺は

年間 9000 人を越えています。このような産業領域の現状において、心理臨床家の役割を再認識し、産業領域における心理技術の向上を図っていくことを考えております。同時に産業医･産業保健スタッフ･人事労務部門との係わりについても、自由に討議したいと考えております。職種を問わず多くの皆様と率直な討議が出来ればと願っております。

研究会では基調講演では、優れた組織経営の実現に必要な産業・組織心理学の知識や視点をご講演いただき、産業保健における「組織の健康度を高める」ことからメンタルヘルスを考えていきたいと考えています。

テーマ 「組織とキャリア」

演者　金井　篤子（名古屋大学大学院教授）

研究会世話人：森崎美奈子、松井　知子、長見まき子、市川　佳居、足立　智昭、松浦　真澄、
森口　修三、廣川　　進、新田　泰生

作業関連性運動器障害研究会…… 18:20 ~ 19:50

テーマ：病院における腰痛予防の取組み

医療福祉職場は腰痛発生職場であり、第１２次防災計画においても重点対策職場となっている。従来、患者の移動や移乗は、看護師や介護職員の人力で行われており、そのことが腰痛発生の大きな要因となっていた。昨年、19 年ぶりに改訂された「職場における腰痛予防対策指針」では、こうした「人による人の抱上げ」が原則として禁止された。国際的に見れば、介護や看護作業での抱上げ禁止は標準的な規制であるが、抱上げを前提とした我が国の介護や看護職場からみると、働き方の大きな転換を迫るもので、医療機関から腰痛予防活動の具体的な進め方について、産業保健の専門家に指導を求める声も増えている。

そこで、本自由集会では、職員の腰痛予防の取組みをすすめている病院からの実践報告を受け、病院で腰痛予防活動を推進するための課題を検討したい。

世話人：

埒田　和史、岩切　一幸、飯田　忠行、宇土　　博、太田　充彦、大西　明宏、佐藤　修二
中石　　仁、中田　　実、中谷　　敦、舟橋　　敦、三橋　　徹

■―――― 第７会場（岡山コンベンションセンター 3F　302 会議室）

産業保健マーケティング研究会…… 14:00 ~ 15:30

テーマ：教育・研修現場における Missing Link

教育・研修の現場では、教えても対象者の行動に変化が観られないということに悩みを抱えています。しかし、そこにはこれまで見落としてきた Missing Link が存在するのではないでしょうか。知識と行動は深く関係していますが、知識が伝わって対象者に自己認識があっても、行動まで変わるかどうかは環境などにも起因し、次元が異なるものです。

教育・研修現場においては、知識の“伝達”、つまり伝えて達しているのかを適切に評価できていないのが現状です。本研究会ではそのソリューションとして、知識が伝わっていく過程を評価し、連続教育・研修期間中にフィードバックができる Key Words Meeting（KWM）システムを実例とあわせてご紹介します。

非正規雇用研究会…… 18:20 ~ 19:50

１．講演会「高学歴者をめぐる就労環境の変化とその背景」

演者：水月昭道（評論家・僧侶）

座長：矢野栄二（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）

今回の研究会では、『高学歴ワーキングプア　「フリーター生産工場」としての大学院』『高学歴女子の貧困－女子は学歴で「幸せ」になれるか？』（共著）の著者として知られる水月昭道氏を迎え、学術・教育界における非正規雇用や高学歴者の就労に関する問題について、近年の変化と背景についての講演会を行う。

２．情報交換会

■ 第 8 会場（岡山コンベンションセンター 4F　407 会議室）

ICOH アクティブメンバーの会 …… 12:50 ～ 13:50

ICOH アクティブメンバーの会

1 挨拶　小木和孝（ICOH 会長）、川上憲人（ICOH 理事）

2 2014 年 2 月理事会報告（産業保健専門職倫理コードの改訂案、ICOH 役員選挙についてなど）

3 第 31 回国際産業保健会議（ICOH 2015、2015 年 5 月 31 日～ 6 月 5 日、韓国 Seoul 特別市）の紹介
URL（日本語）http://www.icoh2015.org/kosha_jp_web/main/main.jsp
演題締切 2014 年 8 月下旬（予定）

4 第 32 回国際産業保健会議（ICOH 2018、Ireland、Dublin 市）の紹介

5 第 21 回アジア産業保健会議（ACOH2014、2014 年 9 月 2 日～ 4 日、福岡市）の紹介
URL http://acoh2014.com/

6 科学分科会（scientific committees）の活動

7 会員の募集、入会希望者受付

8 その他
ICOH 日本事務局
〒 807-8555　北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1
産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学
堀江正知
電話 093-691-7407、FAX 093-601-6392、電子メール icoh@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

中小企業安全衛生研究会…… **14:00 ～ 15:30**

中小企業安全衛生研究会
日時：5 月 22 日（木） 14:00 ～ 15:30
場所：第 8 会場 （岡山コンベンションセンター 4 階　407 会議室）
講演：中小企業だからできる職場適応支援、成功事例から学ぶ
－若い世代の発達障害、パニック障害、いわゆる新型うつ病へのアプローチ－
谷原　弘之（公益財団法人林精神医学研究所　岡山 EAP カウンセリングルーム　臨床心理士）

中小企業のメンタルヘルス対策に困難を伴うことは、多くの産業保健関係者が実感するところです。中小企業のメンタルヘルス対策支援の担い手として EAP が重要な役割を果たしている事例も生まれています。

そこで今回の中小企業安全衛生研究会自由集会では中小企業とのメンタルヘルス契約（社員からのメール相談、電話相談、カウンセリング、ストレス調査）を結び、臨床心理士の専門性を生かして EAP として支援の活動をされ、成果を挙げている谷原弘之先生をお招きし、活動の一端をご紹介いただくとともに、成功事例から中小企業のメンタルヘルス支援のあり方を実践的に学ぶ機会とします。

谷原先生ご所属の EAP、公益財団法人林精神医学研究所は岡山県中小企業同友会の会員にもなっていて、中小企業経営者とも日常的に接する立場にあります。

岡山地方の中小企業は東日本大震災、原発事故の影響を受けて仕事が大きく縮小したかと思うと、今は受注が多くなっているものの、人を増やさず残業で乗り越えようとするため、働く人々の一部はかなり疲弊しています。事業者は社員に臨機応変な働き方を求めるため、メンタルヘルスに関してはセルフコントロールが重要な課題と考えられます。その中で、発達障害やいわゆる新型うつ病を思わせる傾向の事例が出現すると、職場全体が影響を受け、EAP 等の支援を求めることが少なくありません。

事例をご紹介いただき、参加者のみなさんとともに若い世代のメンタルヘルス対策を学ぶとともに、中小企業支援の成功事例から多くの教訓を得る機会となることを期待しています。

世話人：
青山　京子、伊藤　昭好、井奈波良一、茅嶋康太郎、川崎　能道、熊谷　信二、甲田　茂樹、
柴田　英治、菅原　　保、清治　邦章、田畑　正司、寺田　勇人、錦戸　典子、服部　　真、
武藤　繁貴、武藤　孝司、森口　次郎

職域における喫煙対策研究会…… 16:10 ~ 17:40

テーマ：「これでよいのか？　労働安全衛生法改正案
～受動喫煙防止対策が「義務」から「努力」へ後退！」

PM2.5 問題を通して、国民の空気環境に対する意識は高まっている。
汚染されない空気環境の大切さを私たちが強く意識し始めたこの時代に、職域の空気環境が悪化する事態が懸念される方向へと法改正がなされてしまうことは、非常に憂慮すべきことである。
日本は、「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」を批准しており、第 8 条に添って罰則を含む受動喫煙防止法の制定に向けて進まなければならないこの時期に、国際的な流れに逆行するかのように、今回の労働安全衛生法の改正では、本来「義務」であるべき「受動喫煙の防止」が「適切な措置を講ずるように努めるものとする」という「努力目標」へと後退する法案が国会に提出された。
日本産業衛生学会では、労働者の職場環境への一層の安全性を確保し、ひいては社会の健康、安全推進のために受動喫煙被害を撲滅するべく、2011 年、「働く人を喫煙と受動喫煙の害から守るためのたばこ対策宣言」を発表した。今回の自由集会では、労働安全衛生法における受動喫煙対策の問題点を明らかにし、本来あるべき受動喫煙防止対策の「義務化」へ向けての活動について参加者とともに考えたい。

開催日程：2014 年 5 月 22 日（木） 16：10 － 17：40
会場：第 8 会場（岡山コンベンションセンター 4 階 407 会議室）
座長：阿部　眞弓　（東京メディカルクリニック健診センター、東京女子医科大学呼吸器内科）
大和　　浩　（産業医科大学　産業生態科学研究所　健康開発科学研究室）

世話人名簿：
清水　良恵、利根川豊子、大和　　浩、阿部　眞弓、山畑　敦子、中村　正和、大神　　明、尾崎　哲則、埴岡　　隆

■ 5月23日（金） ―― 第１会場（岡山コンベンションセンター 3F　コンベンションホール）

職域における睡眠呼吸障害研究会…… 17:30 ～ 19:00

テーマ：「職域における睡眠に関する疫学研究」

座　長：谷川　　武（順天堂大学大学院医学系研究科　公衆衛生学）
　　津田　　徹（医療法人社団　恵友会　霧ヶ丘つだ病院　理事長・院長）

１．講演：
「職域における睡眠に関する疫学研究」
　　中田　光紀　（産業医科大学産業保健学部　教授）

２．総合討論：
中田光紀教授は日米において睡眠に関する疫学研究を幅広く行っておられ、これまで得られた知見について有意義な情報を提供いただく予定である。

代表世話人：谷川　　武（順天堂大学大学院医学系研究科　公衆衛生学）

■―― 第２会場（岡山コンベンションセンター 1F　イベントホール 1/2 東）

交通における安全と産業衛生の研究会…… 8:30 ～ 10:00

第 11 回交通における安全と産業衛生の研究会
テーマ　公共交通の行政・実務など様々な立場からの安全
プログラム概要
　座長　福本正勝　代表世話人
・教育講演
　　「航空身体検査改正について（仮題）」
　演者　国土交通省航空局安全部運行安全課乗員政策室（航空事業安全室併任）
　　航空医学評価官　宮川芳宏　先生
・指定発言（予定）
　演者　（財団法人）航空医学研究センター
　　所長　五味秀穂　先生

連絡先事務局　JR 東日本健康推進センター　医学適性科　笠原悦夫
内容についてのお問い合わせは、e-kasahara@jreast.co.jp　までお願いいたします。また、詳細については総会会場の連絡ボード等にプログラムを掲示いたします。

リスクマネジメントにもとづく健康管理シリーズ…… 17:30 ~ 19:00

企業における健康管理は、表面的にはどうあれリスクマネジメントを基礎に持つことが求められる。この点から健康管理を整理しなおせば、健康診断事後措置も、過重労働対策も、そして、メンタル対策も、原則的に同じ考え方に添って構築できるとするのが、岡山大学産業医グループの考え方である。

本年の自由集会では、過去6年にわたって実施してきたシリーズの第7回である。例年同様、安西法律事務所から労働法専門の弁護士さんにコメントをいただきながら、「新しい視点」での健康管理について自由に討議する。なお、本年は連載「しごとと健康」の単行本化も行われるため、健診・過重労働・メンタル等幅広く討議する。

第81回総会（平成20年・札　幌）　第1回　健康診断事後措置
第82回総会（平成21年・福　岡）　第2回　過重労働対策
第83回総会（平成22年・福　井）　第3回　メンタルヘルス対策
第84回総会（平成23年・東　京）　第4回　メンタルヘルス特集（三夜連続開催）
第85回総会（平成24年・名古屋）　第5回　産業医が訴えられたとき
第86回総会（平成25年・愛　媛）　第6回　新しい視点

世話人：高尾　総司（岡山大学大学院　疫学・衛生学分野　講師）
ゲスト：梅木　佳則（安西法律事務所　弁護士）

■―――――――― 第３会場（岡山コンベンションセンター 1F　イベントホール 1/2 西）

一般社団法人　日本産業保健師会…… 8:30 ～ 10:00

【テーマ】

「産業保健師の原点から未来へ」

【内容紹介】

日本の保健師の原点は昭和 16 年まで遡り、第一線で公衆衛生を支える国家資格として現在に至っている。その歴史の中で保健師は自らの能力の向上に加え、政策提言や法制化等も行ってきたが、古くの産業保健師活動は、保健所等の保健師活動に比べて明文化されたものが限られているため、実際の活動や背景、そして保健師としての思い等に関し、世代を超えて十分に継承されているとは言い難い。

発足７年目を迎えた日本産業保健師会は、昨年度には一般社団法人となり会員数も 400 名を超え、名実ともに産業保健師の職能団体として活動する力をつけてきた。この自由集会では、半世紀を超えて産業保健師の活動に携わり発展に貢献してきた先輩保健師の生の体験談等を聴き、参加者と共に現在にも通じる職種の特性や活動方法、考え方等を共有し、今後の発展の糧となる示唆を得たいと考えている。

【進め方】

1.「産業保健師活動の半世紀（体験談等）」を聴く

2.参加者との意見・情報交換

【世話人】

大神あゆみ、荒木田美香子、亀ヶ谷律子

振動障害研究会…… 17:30 ～ 19:00

話題

1）　振動障害の診断ガイドライン 2013 について　石竹達也（久留米大学）

2）　ISO 関連情報

ISO における冷水浸漬検査法検討状況　宮下和久（和歌山医大）

3）　その他

■ 第４会場（岡山コンベンションセンター 2F　レセプションホール）

産業保健情報・政策研究会 …… 8:30 ～ 10:00

テーマ：産業保健領域におけるシームレス連携を目指したＰＨＲ活用の展望
　　―中小企業での健診情報活用と産業保健スタッフの役割―
演　者：八幡　勝也（住田病院　副院長）
　　大神　　明（産業医科大学産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学研究室　教授）
司　会：昇　淳一郎（パナソニックヘルスケア株式会社松山地区健康管理室）
内　容：

事業場における健康診断は、事業者の責任の下に、企業が法律によって個人健康情報を管理しているが、特に中小企業においてはその情報により個人が自分自身の健康を管理するという点において、活用されているとは言いがたいのが実感である。具体的には、中小の分散型事業場での集約的産業保健管理が求められるようになると、労働者の異動による健康情報伝達の途絶、受診した健診機関による標準値や診断基準の相違、各事業場での健康情報の活用の温度差、などの課題も散見されているように思われる。

従来、産業医が行う健康管理ワークフローは健康診断データを基にして個人あるいは企業全体に対してアプローチがなされることが主であり、その骨組みは今後も変わることはないと思われる。しかしながら、今日では技術的革新と高度情報化の中で、デジタル情報として個人データや包括データを経年かつ多容量に取り扱うことが可能かつ主流になった。職域におけるデジタル情報をベースとした効果的な健康管理を考えたとき、個人データを産業医などの産業保健スタッフが効率的に運用できるかどうかという点、健診データが労働者個人自らの健康管理に対して有効に活用可能なツールやプロトコールになっているか否かという点は重要な点であろう。職域における効果的な健康管理を行う上では、デジタル統合技術をベースとして、労働者各個人が主体的に各自の健康情報を管理し、事業場の特性に応じた健康診断の必要性を理解し、積極的に健康診断を受診し、産業医などの産業保健スタッフが労働者に対して個人健康データに関して活用していくような仕組みへのパラダイムシフトが必要な時期に来ているのではなかろうか？

職域身体活動研究会 …… 17:30 ～ 19:00

教育講演
テーマ：職域におけるコホート研究の実施方法の基本
演　者：澤田　　亨（独立行政法人 国立健康・栄養研究所）
概　要：

コホート研究は観察研究としては最もエビデンスレベルの高い研究であり、信頼性の高い健康情報を提供できる研究デザインであると考えられています。一方で、対象者を長期間追跡する必要があり、実施が困難な研究でもあります。しかしながら、長期間在職する労働者が数多く存在し、追跡が容易な職域が少なからず存在すると考えられます。また、定期健康診断によってさまざまな疾病発症を容易に把握することができる職域も少なくないと考えられます。本講演ではこのような職域の特徴をいかして、どのようにコホート研究を実施できるのか、身体活動と健康に関するコホート研究を例に、いくつかのヒントをお伝えしたいと考えております。

世話人：
池田　初恵、甲斐　裕子、木下　藤寿、熊谷　秋三、澤田　　亨、須藤美智子、武田　繁夫、
三嘴　　明

■ 第５会場（岡山コンベンションセンター 2F　展示ホール）

放射線・原子力保健研究会 …… 8:30 ～ 10:00

座　長：日本原燃株式会社　神　　裕（代表世話人）

医療従事者のための産業保健研究会 …… 10:10 ～ 11:40

医療機関における針刺し対策 update
第８７回日本産業衛生学会第１５回医療従事者のための産業保健研究会
テーマ：医療機関における針刺し対策 update
コーディネーター：吉川　　徹（労研）、和田　耕治（国立国際医療研究センター）
内　容：
血液媒介病原体への曝露機会となる針刺し切創は、医療機関の産業保健スタッフはかなりの頻度で日常的に対応しています。感染対策委員会や安全衛生委員会で報告されるたび、なかなか減らないなあと感じていませんか。日本では 100 床あたり年間約 6.7 件の針刺し損傷が発生しています（400 床以上 800 床未満の場合、職業感染制御研究会エピネット日本版サーベイランス 2011）。たとえば、400 床の病院では、年間約 28 件。発生件数は病院の規模が大きくなるとその件数も増えます。年代、職種、発生場所、原因器材など針刺し発生状況の疫学的な特長や、その対策視点も整理されています。今回の自由集会では針刺し切創を取り上げて、集中討議を行います。
＜話題提供１＞木戸　内清（岐阜県東濃保健所　所長）
「血液媒介職業感染一次予防活動：定期病院立ち入り検査の活用と中小病院の血液・体液曝露サーベイランスの指標作り～労働安全衛生の視点を踏まえて～」
＜話題提供２＞吉川　　徹（労研、職業感染制御研究会エピネット日本版サーベイランス WG）
「日本における針刺し切創、血液体液曝露の現状と対策」
＜話題提供３＞「各施設の取り組みと課題、出席者から」
医療従事者のための産業保健研究会世話人：
織田　　進、堤　　明純、浜口　裕江、東　　敏昭、三木　明子、○吉川　　徹、吉田　和朗、和田　耕治（○は世話人代表）

産業疫学研究会・倫理審査委員会…… 14:10 ～ 15:40

産業疫学研究会自由集会
日本産業衛生学会産業疫学研究会及び日本産業衛生学会倫理審査委員会共催
特別講演「研究倫理指針はどう変わるか」
講　師　田代　志門（昭和大学研究推進室）
座　長　堀江　正知（産業医科大学産業保健管理学）

職場において労働者の健康情報を取り扱った研究活動に従事する産業衛生学に関係する研究者や実務家にとって注目すべき倫理指針の改正作業が進行中です。現在、厚生労働省と文部科学省が開催している「疫学研究に関する倫理指針及び臨床研究に関する倫理指針の見直しに係る合同会議」の委員をされている田代志門先生をお招きして、「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」の見直しの動向についてわかりやすく解説いただきます。

大学・研究機関における安全衛生管理研究会…… 17:30 ～ 19:00

大学・研究機関における安全衛生管理研究会自由集会

■―――― 第６会場（岡山コンベンションセンター 3F　301会議室）

第16回就労女性健康研究会…… 8:30 ～ 10:00

第 16 回　就労女性健康研究会
テーマ：女性が活き活きと働くための疲労・加齢対策
座　長：長井　聡里　先生（すてっぷ産業医事務所所長）
　　江畑　智恵　先生（江畑産業医・労働衛生コンサルタント事務所所長）
演　者：本間　良子　先生（スクエアクリニック院長）
内容紹介：

欧米では抗加齢医学の臨床の場で重要とされているアドレナルファティーグ（副腎疲労）という概念を第一人者から得とくし日本で実践されている演者から、最新の米国事情も盛り込んでお話していただく予定です。後半はいつものように楽しい雰囲気の中で、疲労や老化のメカニズムの勉強会とその対策を検討するための研究の紹介等を行います。ぜひご参加ください。

代表世話人：野原　理子（東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学（一）教室講師）

エイジマネジメント研究会…… 15:50 ~ 17:20

第 9 回エイジマネジメント研究会

1. 開会挨拶

神代　雅晴　先生（本研究会代表世話人、財団法人日本予防医学協会理事長、産業医科大学名誉教授）

2. 参加型トーク

「高齢労働時代の産業保健戦略」～ 2013 年 4 月の改正高年齢者雇用安定法施行後の企業現場における問題点を整理し、課題解決の糸口を探る～

ファシリテーター：神代　雅晴　先生

① 監査報告、日野義之先生（本研究会監事、ひの労働衛生 コンサルタント事務所代表）

② 活動報告並びに今後の本研究会の方向性について

③ 名簿更新

温熱環境研究会…… 17:30 ~ 19:00

代表世話人：　田中　正敏　教授　（福島学院大学）

研究会事務局：　堀江　正知　教授　（産業医科大学）

■ 第７会場（岡山コンベンションセンター 3F　302 会議室）

職域救急研究会…… 8:30 ～ 10:00

テーマ：産業保健に必要な救急救命処置 ―一酸化炭素中毒の対策について・心肺蘇生実技講習―

産業保健の現場では、急患発生時あるいは 事故発生時に、産業保健スタッフが中心となって 救命救急対応を行うケースも稀ではありません。しかし、処置の方法、Basic Life support（BLS）に自信のない産業衛生スタッフも多いのも事実です。当職域救急研究会は昨年度より産業保健スタッフを中心とした初動対応の確立を目指し、救急蘇生の専門家の指導の下、最先端の機器を用いた BLS の実技を学ぶ機会を設け好評を得ております。今年も参加者枠を増加して開催いたします。また、今年はさらに専門家による急性中毒の処置の座学も行います。奮って参加いただきますようお願い申し上げます。

【研修会内容】

１部　講演　　一酸化炭素中毒の予防と対策

　　講師　　日立製作所水戸健康管理センタ　産業医　中谷敦先生

２部　学科講習　ガイドライン 2010 に基づく BLS

　　実技講習　Real time auto feed back を利用した正しい胸骨圧迫の訓練

　　Role playing による AED の使い方

　　簡単な確認テスト

　　講師　　富士通㈱健康推進本部小山健康推進センター長　佐藤　裕司先生

　　インストラクター　救急振興財団救急救命東京研修所教授　横山　徹先生

　　富士電機東京事業所管理部健康管理センター　染村　宏法先生

　　他　数名

　　定員　　40 名 先着順（定員になり次第締め切らせていただきます）

発起人代表　富士電機（株）東京事業所　健康管理センター長　堀川直人

事務連絡先　救急振興財団救急救命東京研修所　教授　南浩一郎

〒 192-0364 東京都八王子市南大沢 4-5　TEL:042-675-9910 FAX:042-674-995

ＶＤＴ作業研究会……10:40～ 12:10

テーマ：筋骨格系障害の対策と治療
座　長：東京工業大学　落合　孝則
特別講演：VDT 作業における健康障害の予防と治療について
－筋骨格系障害の対策と治療を中心にー
広島文教女子大学院　福祉工学　宇土博

近年、職場における VDT 作業の普遍化および長時間労働化が進行し、長時間の座位姿勢、上肢の保持・反復作業により慢性の腰痛や頚肩腕障害および眼精疲労が多発している。これに対する効果的な予防対策の検討と慢性化を予防するために効果的な治療の検討が要請されている。今回は、腰痛や頚肩腕障害の原因となる姿勢ストレスを緩和するアームレストおよび座面傾動椅子を中心に対策を述べる。また、近年は、長期間継続する疼痛により神経の可塑性変化（疼痛の記憶）が生じて痛みが慢性化することが指摘されており、多くの労働者が長期間継続する疼痛に悩まされており、これを予防・治療する新経絡治療についても報告する。

アルコール問題研究会……14:10～ 15:40

働く人のアルコール問題

労働衛生国際協力研究会……15:50～ 17:20

労働衛生国際協力研究会 第 32 回研究会

１．特別報告

ＩＬＯから見た産業安全保健におけるグロ－バルな課題

川上剛（ILOジュネーブ本部）

ＩＬＯの最近の活動について報告する。また、ＩＳＯのＯＨＳＭＳ策定を巡る共同作業についても触れる予定。

２．会員活動報告ほか

世話人　毛利　一平（東京労働安全衛生センター）

産業看護部会　自由集会……17:30～ 19:00

～中間報告：産業看護職新専門制度はこう変わる～

■ 第 8 会場（岡山コンベンションセンター 4F　407 会議室）

生涯教育委員会　若手研究者の会…… 8:30 ～ 10:00

学会発表から論文化を目指すためのヒント
本自由集会は、若手でこれから研究に取り組みたいと考えている産業保健職を対象にしています。学会発表はできるようになったが次に必要な論文化への一歩を踏み出すためのヒントを共有します。ぜひこれから論文を書いてみたいという方はご参加ください。

＜発表＞
井澤　修平（独立行政法人労働安全衛生総合研究所）
　学会発表から論文への一歩
野村　恭子（帝京大学女性医師・研究者支援センター）
　学会発表を論文化するためにクリアしなければならない点
和田　耕治（独立行政法人国立国際医療研究センター）
　論文を書く際に知っておきたいポイント
今井　鉄平（アズビル（株）人事部統括産業医）
　産業医の立場で論文を書くポイント～多施設とのコラボを利用する方法～

＜世話人＞
浅海　　洋（JR 九州）
井澤　修平（独立行政法人労働安全衛生総合研究所）
稲田　晴彦（筑波大学医学医療系福祉医療学分野）
江口　　尚（北里大学医学部公衆衛生学）
川島　正敏（東海旅客鉄道株式会社新大阪健康管理室）
津野香奈美（和歌山県立医科大学医学部衛生学教室）
樋口　善之（福岡教育大学教育学部）
吉川　悦子（東京有明医療大）
吉川　　徹（公益財団法人労働科学研究所）

■ 401 会議室（岡山コンベンションセンター 4F　401 会議室）

四部会合同企画運営委員会…… 12:30 ～ 13:30

■ 5月24日（土） ―――― 第６会場（岡山コンベンションセンター 3F　301会議室）

騒音障害防止研究会…… 8:30 ～ 10:00

第 11 回騒音障害防止研究会
代表世話人：井上　仁郎（産業医科大学産業生態科学研究所産業保健管理学）
世話人：
伊藤　昭好、川波　祥子、近藤　充輔、佐々木直子、佐藤　教昭、筒井　隆夫、傳田　郁夫、中尾　智、堀江　正知

テーマ：職場の騒音対策事例検討
座　長：堀江　正知
（1）演者：中尾　　智　（株式会社アルバック）
（2）演者：新見　亮輔　（株式会社 IHI）

産業栄養研究会…… 10:10 ～ 11:40

テーマ：利用者間の健康状態に応じた従業員食堂での栄養管理を推進するために求められること
内　容：
近年、健康的なメニューを提供する従業員食堂に社会的な関心が集まり、マスコミでも頻繁に取り上げられている。しかし、未だ多くの職域では、嗜好やコストに偏重した食堂運営となっていることが危惧される。
平成 25 年度から展開されている健康日本 21（第 2 次）の栄養・食生活分野の目標には、「利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している特定給食施設の増加」が掲げられた。厚生労働省は、これにあわせる形で、特定給食施設の指導等を担当する地方自治体に対して、事業所給食に関して、利用者に応じた食事の提供とともに、特定健診・特定保健指導等の実施もあわせ、利用者の身体状況の改善が図られるよう、指導・支援を行うよう通知している。
具体的には利用者（従業員）の健康状態に応じた従業員食堂でのメニュー提供（栄養管理）を推進するために、肥満ややせ者の割合をモニタリングすることを始めとした、健診成績や医療費に関わる組織内での情報の共有化とこれらに基づく給食運営が求められている。このことを実現するためには、安全衛生委員会などでの産業医、産業保健師を中心とした健康管理部門、人事や総務部門、給食部門との連携・協力関係が不可欠である。
今回は、どのようにしてこれらの関係を構築・強化して、必要な情報を共有し、望ましい食堂運営に繋げて行くのかについて、議論を深めたい。
進行（世話人）：
石田　裕美（女子栄養大学）、由田　克士（大阪市立大学大学院生活科学研究科）

■―――― 第８会場（岡山コンベンションセンター 4F　407 会議室）

労働衛生史研究会…… 8:30 ~ 10:00

第 63 回労働衛生史研究会

第 63 回労働衛生史研究会は、中国地方の職業病に関する歴史的なテーマをお願いし、ご講演いただく。

司会進行：清水英佑（中央労働災害防止協会　労働衛生調査分析センター）

演題と演者：

1．広島県呉での石綿関連疾患の研究

岸　本　卓　巳　先生（岡山労災病院副院長）

戦艦大和製造を中心とした呉海軍工廠での職業歴を持つ人々の石綿肺や石綿肺がんについて調査した。

肺内石綿小体数の算定、画像上の胸膜プラークの診断方法について検討した結果、中皮腫症例の大半が職業性石綿ばく露によるものであることを明らかにした。当時、中皮腫の多発地帯は横須賀のみであった。

2．マスタードガスによる呼吸器障害の病理学的研究の歴史

－イランにおける障害者との比較を含めて－

井　内　康　輝　先生（広島大学名誉教授（病理学））

（NPO 法人総合遠隔医療支援機構理事長）

（株式会社　病理診断センター取締役）

化学兵器の一種であるマスタードガス（MG）は、国際的禁止条約があるにもかかわらず、日本では 1929 年から 1945 年まで、広島県大久野島の工場で生産され、陸軍により中国大陸で使用された。製造に従事した従業員は、慢性的に微量の MG にばく露し、慢性気管支炎に罹患し、その後に中枢型肺癌発生の高危険群となった。肺癌の発生過程や遺伝子異常、さらに 1980-1988 年のイラン・イラク戦争中に使用された MG 弾によるイラン人被害者の呼吸器障害についても報告する。

産業神経・行動学研究会…… 10:10 ~ 11:40

第 26 回産業神経・行動学研究会

1．　秋田大学大学院医学系研究科環境保健学講座　村田勝敬

「鉛の生物学的許容値の改訂について」

2．労働安全衛生総合研究所　Vigeh Mohsen

「Early childhood mental development affected by low-level of lead exposure」

3．研究会打ち合わせ

■ 第９会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

産業疲労研究会…… 8:30 ～ 10:00

テーマ：疲れを感じない労働者はいるのか？

第 80 回定例研究会

企画主旨：

現代労働者の疲労は睡眠・休養でも回復しづらく長期にわたる慢性疲労である。しかし、同じ組織や職場に従事していても疲労を感じる労働者と感じない労働者は存在する。この差はどこにあるのか。疲労を感じない＝上手に疲労回復を行っているのか？疲労を感じない労働者に焦点をあて、その労働者の生活行動様式から疲労対策のヒントを得る機会としたい。産業界から講師を招き、自身の疲労対処について話を聞き、参加者を交えて討論する。

代表世話人：

松元　　俊（公益財団法人　労働科学研究所）

世話人：

岩根　幹能、北原　照代、久保　智英、近藤　雄二、佐々木　司、城　　憲秀、武山　英麿、
田中　雅人、塚田　月美

報告事項

（1）H 25 年度事業実績
（2）H 25 年度会計報告
（3）H 26 年度事業計画
（4）世話人会からの報告その他

ストレス対処・健康生成力 SOC に関する研究会…… 10:10 ～ 11:40

テーマ：産業衛生分野における健康生成論とストレス対処・健康生成力 SOC の学習・交流集会

【概要】未曽有の震災や不景気、グローバリゼーションと相まって混迷とストレスの続く現代社会のなか、イスラエルの健康社会学者アントノフスキーが提唱した健康生成論が注目を集めています。従来のアプローチが種々の疾病や健康障害とそのリスクに向けられてきたのに対して、健康生成論は、健康の回復・維持・増進の観点から、その要因にアプローチしようとする考え方です。

健康生成論における中核概念である SOC（Sense of Coherence：首尾一貫感覚）は、「生きる力」とも響きあうストレス対処力であり、人生における逆境を乗り越えるばかりか、それを成長の糧とする包括的な健康保持力として産業衛生分野でも注目が集まっています。近年は今学会においても SOC を指標とした研究が増加しつつあり、疾病予防や職場環境改善に着目するのみでなく、労働者にいかに生き生きと働いてもらうか、という観点からも、健康生成的アプローチを必要としている声が増えております。

キックオフとなる今研究会は、健康生成論と SOC の一般的な説明から、SOC の研究活用のポイント、実務上の活用事例まで、幅広いディスカッションを予定しています。SOC を初めて耳にする方から、実際に研究･実務報告をされている方まで、多くの方に活用いただける研究会を予定しておりますので、是非振るってご参加ください。

【プログラム】座長：戸ヶ里泰典（放送大学 准教授）

1）演者（話題提供）：山崎喜比古（日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授）
2）演者（話題提供）：笹原信一朗（筑波大学 医学医療系 准教授）
3）演者（話題提供）：影山隆之（大分県立看護科学大学 精神看護学 教授）
4）ディスカッション・質疑応答・問題提起など

世話人名簿：

大井　雄一（代表世話人）、影山　隆之、小林　敏生、鈴木　　瞬、武田　　文、戸ヶ里泰典、
友常　祐介、松崎　一葉、山崎喜比古